



09/335-33

日本特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
(Date of Application):

2000年 3月 10日

出願番号
(Application Number):

特願2000-067828

願人
(Applicant(s)):

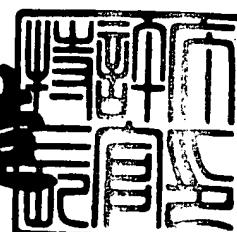
有限会社ハートギフト

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 3月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 P0361HG04

【提出日】 平成12年 3月10日

【あて先】 特許庁長官 殿

【発明者】

【住所又は居所】 兵庫県西宮市樋の池町27-14-605

【氏名】 池田 文子

【特許出願人】

【住所又は居所】 兵庫県西宮市樋の池町27-14-605

【氏名又は名称】 有限会社ハートギフト

【代理人】

【識別番号】 100104581

【弁理士】

【氏名又は名称】 宮崎 伊章

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 049456

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 オンラインギフト方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 通信ネットワークを利用してギフト商品を贈答するシステムであって、男性及び女性を少なくとも1人ずつ含んでいる複数の利用者が、通信ネットワークを利用した仮想空間と、当該仮想空間内において各利用者毎に定義されたシンボルとを共有しており、この仮想空間内で各利用者毎に定義されたシンボルがお見合いをしてメッセージを交換することにより、利用者のうちの1人である贈答人が、利用者のうちの1人である被贈答人に対するギフト商品を選択して贈答するオンラインギフト方法。

【請求項2】 仮想空間に仮想店舗が少なくとも設けられており、当該仮想店舗を利用して、贈答人が被贈答人に対するギフト商品を選択して贈答する請求項1記載のオンラインギフト方法。

【請求項3】 複数の利用者の人数が2人である請求項1又は2記載のオンラインギフト方法。

【請求項4】 ギフト商品取扱い業者が、交換し合っているメッセージを基にして、各利用者に対する好適なギフト商品を選択し、ある利用者に対する好適なギフト商品情報を他の利用者に提供する請求項1乃至3のいずれかの項に記載のオンラインギフト方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、通信ネットワークを利用したオンラインギフト方法に関する。

【0002】

【課題を解決するための手段】

本発明では、銳意検討の結果、通信ネットワークを利用してギフト商品を贈答するシステムであって、男性及び女性を少なくとも1人ずつ含んでいる複数の利用者が、通信ネットワークを利用した仮想空間と、当該仮想空間内において各利用者毎に定義されたシンボルとを共有しており、この仮想空間内で各利用者毎に

定義されたシンボルがお見合いをしてメッセージを交換することにより、利用者のうちの1人である贈答人が、利用者のうちの1人である被贈答人に対するギフト商品を選択して贈答するオンラインギフト方法を採用した。

【0003】

従って、本発明では、利用者同士は、実際に顔を合わせなくても、あたかも会っているかのようにお見合いをしながら、いずれかの利用者（贈答する側である贈答人）はギフト商品を選んで、他の利用者（贈答される側である被贈答人）に贈ることができる。

【0004】

特に、通信ネットワークを利用しているので、利用者同士は、通信ネットワークに接続することができる機器（以下、「ネット接続機器」と称する場合がある）を用いて、家に居ながらあっても、或いはあらゆる場所であっても、あたかも利用者同士が実際に会って会話しているかのようにお見合いをして、ギフト商品を選んで贈ることができる。そのため、ギフト商品を取り扱っている店舗に足を運ぶ必要はない。また、注文する時間にも制限はなく、24時間いつでも注文を行うことができる。

【0005】

本発明では、仮想空間に仮想店舗が少なくとも設けられており、当該仮想店舗を利用して、贈答人が被贈答人に対するギフト商品を選択して贈答するオンラインギフト方法が好ましい。このように、コンピュータ等のネット接続機器上の画面に、仮想店舗が設けられていると、利用者同士で買い物をしているような雰囲気でお見合いをしつつ、ギフト商品を選択することができるため、より一層楽しくギフト商品を選ぶことができる。

【0006】

本発明のオンラインギフト方法では、お見合いを採用しているため、複数の利用者の人数が2人であることが好ましい。

【0007】

特に、ギフト商品取扱い業者が、交換し合っているメッセージを基にして、各利用者に対する好適なギフト商品を選択し、ある利用者に対する好適なギフト商

品情報を他の利用者に提供するオンラインギフト方法が好適である。このように、ギフト商品取扱い業者がお見合い中の会話からその人の趣味や好みのもの等を求めて、その人に適したギフト商品を選択して、その人に好適なギフト商品情報を他の人に提供する形態であると、ギフト商品情報を提供された利用者である贈答人は、そのギフト商品情報に係る利用者である被贈答人に喜ばれるギフト商品を贈ることができるので、そのお見合いが成功する可能性が高まる。

【0008】

【発明の実施の形態】

本発明では、複数の利用者同士の間でメッセージを交換する、いわゆる「チャット（おしゃべり）システム」等と称されているメッセージ通信システムを利用している。このようなメッセージ通信システムでは、仮想空間を設けることができる。そのため、前記メッセージ通信システムを用いると、仮想空間で、利用者同士がメッセージを交換して、あたかも会っているかのように会話を行うことができる。

【0009】

本発明のオンラインギフトシステムでは、複数の利用者は、通信ネットワークを利用して、仮想空間を共有している。この仮想空間は、利用者の視覚的な観点において、平面又は立体的に構成することができる。

【0010】

仮想空間としては、特に制限されず、例えば、日本国のいずれかの場所や、いずれかの外国のどこかの場所を表現した仮想の空間であってもよい。もちろん、仮想空間であるので、実際には存在しない仮想の空間であってもよい。例えば、仮想空間が仮想街（バーチャルタウン）であってもよい。このようなバーチャルタウンでは、仮想の店舗又は商店（単に「仮想店舗」と称する場合がある）が設けられていることが好ましい。

【0011】

また、複数の利用者は、仮想空間内において各利用者毎に定義されたシンボル、いわゆる「アバター」と称されている各利用者自身の化身（シンボル）を共有している。

【0012】

各利用者は、各自のネット接続機器端末で、それぞれの利用者に対応したアバターを操作することができる。例えば、仮想空間内でアバターを好きな場所に動かせることができる。また、文字や音声により、利用者に係るアバターを話させたりすることができる。利用者は、文字情報や音声情報を送信することにより、アバターを話させることができる。

【0013】

このように、仮想空間内では、各利用者に係るアバターが動き、文字や音声により話すことができ、このアバターを用いて、利用者同士が会話をを行うことができる。すなわち、利用者同士があたかも会っているかのように、利用者同士は会話をすることができる。

【0014】

本発明のオンラインギフト方法に係るオンラインギフトシステムに、利用者は予め登録していることが好ましい。この登録に際しては、アバターの種類も登録することができる。このように、予め登録することにより、各利用者に適したアバターを用いることができる。例えば、利用者が女性の場合は女性風のアバターを用いることができ、男性の場合は男性風のアバターを用いることができる。また、髪の毛が長い人の場合は、ロングヘアのアバターを操作することができる。もちろん、アバターは化身であるので、利用者自身とは全く異なる容姿又はルックスのアバターも用いることは可能である。すなわち、各利用者の嗜好に合わせたアバターを用いることができる。

【0015】

例えば、1人の男性と、1人の女性とが本発明のオンラインギフトシステムを利用する場合、仮想空間には、男性の利用者が男性風のアバターを、女性の利用者が女性風のアバターを用いて、お見合いをすることができる。そして、この2人のアバターが、仮想空間としてのバーチャルタウン内で、お見合いをすることにより、実際の利用者が、実際に会っていないにもかかわらず、会っているかのようにお見合いをしている感覚を体験することができる。

【0016】

この仮想空間内には、前述のように、仮想店舗（バーチャルストアー）が設けられていることが好ましい。仮想店舗の種類は特に制限されず、各種の商品を取り扱った店舗とすることができます。すなわち、バーチャルタウン内では複数のバーチャルストアーが設けられ、いろいろな商品を販売している形態を有していることが好ましい。

【0017】

このように、仮想空間内に仮想店舗が設けられていると、お見合い中のアバターが仮想店舗に入ると、画面はその仮想店舗内の画面に変わり、仮想店舗内に設置されている仮想商品を、利用者は見ることができる形態とすることができます。仮想店舗内で、2人のアバターが動き、商品を手にとって、どの商品が欲しいのか会話しつつ、商品を選択することができる。

【0018】

このとき、アバターが仮想商品を手に取ると、その商品の具体的な表示が現れる構成とすることができます。

【0019】

そして、例えば、男性のアバターが女性のアバターに仮想商品を渡し、女性のアバターがそれを受け取ることにより、男性の利用者から女性の利用者にギフト商品を贈ることができる形態とすることができます。すなわち、一方の利用者に係るアバターから他の利用者に係るアバターに仮想商品が渡され、渡されたアバターが仮想商品を受け取ると、ギフト商品取扱い業者が、渡した方の利用者にはその商品の代金を請求し、渡された方の利用者にはその商品を送ることにより、贈答人から被贈答人へのギフト商品の贈答を行うことができる形態とすることができます。

【0020】

また、例えば、男性のアバターが女性のアバターに仮想商品を渡し、女性のアバターがそれを受け取って買い物かごに入れ、その仮想店舗のレジ（精算台）にその仮想商品を置き、男性のアバターが財布を出すことにより、男性の利用者から女性の利用者にギフト商品を贈ることができる形態とすることができます。すなわち、一方の利用者に係るアバターから他の利用者に係るアバターに仮想商品が

渡され、渡されたアバターが仮想商品を受け取って買い物かごに入れ、その仮想商品をレジに置き、一方のアバターが財布を出すことにより、ギフト商品取扱い業者が、財布を出した方の利用者にはその商品の代金を請求し、商品を渡された方の利用者にはその商品を送ることにより、贈答人から被贈答人へのギフト商品の贈答を行うことができる形態とすることができます。

【0021】

また、被贈答者に係るアバターが仮想商品を手に持って、贈答者に係るアバターの頬にキスをすることにより、その商品の購入が決定する方法も採用することができる。その後、アバターの胸元から財布を出した方にその商品の請求が行われる方法も採用することができる。

【0022】

被贈答人に係る利用者は、その商品に係るラッピングを指定することができる構成を採用することができる。

【0023】

また、贈答人に係る利用者は、商品の購入に際してメッセージの付加を申し込むことができる。このような形態では、ギフト商品取扱い業者がその商品を送る前に、贈答人に係る利用者が商品に付けるメッセージをギフト商品取扱い業者に知らせることにより、メッセージ付のギフト商品を贈答人から被贈答人に贈ることができる。

【0024】

もちろん、ギフト商品取扱い業者が被贈答人に送る商品は、仮想の商品ではなく、本物の商品である。

【0025】

また、仮想空間がフランス国の中を表現したバーチャルタウンであり、お見合い中のアバターがこのバーチャルタウンでデートして、男性のアバターが仮想商品である香水をギフト商品として女性のアバターに渡して、男性の利用者から女性の利用者に香水をプレゼントする形態などであってもよい。

【0026】

従って、男性と女性との利用者がたとえ離れた場所にいても、お見合いを体験

することができ、2人で一緒に欲しい物を目で見て探し、会話しながら決めることができる。

【0027】

本発明では、ギフト商品取扱い業者が、交換し合っているメッセージを基にして、各利用者に対する好適なギフト商品を選択することができる。ある利用者にとって好適なギフト商品を選択する際には、ギフト商品取扱い業者が蓄積したデータを利用することにより、その人に対する好適なギフト商品情報を、一層確かなものとすることができます。

【0028】

特に、このギフト商品情報を、他の利用者に提供することもできる。例えば、女性の利用者に関する好適なギフト商品情報を、男性の利用者に提供すると、男性の利用者は、その情報を基にして女性の利用者に喜ばれるギフト商品を贈ることができる。そのため、このお見合いが成功する可能性が高まる。また、ギフト商品取扱い業者にとっても、ギフト商品が売れるので、メリットがある。従って、利用者のみならず、ギフト商品取扱い業者にとってもメリットが大きい。

【0029】

なお、お見合い中の仮想空間では、相性占いの仮想店舗などが設けられていてもよい。

【0030】

このように、本発明のオンラインギフト方法は、コミュニケーションと販売とが融合されている。

【0031】

本発明では、前述のように、利用者は登録していることが好ましい。登録することにより、その利用者（ユーザ）専用のホームページが作成されてもよい。このように、ユーザ専用のホームページが設けられると、仮想空間を有効に利用することができる。

【0032】

ユーザの登録事項として、例えば、趣味、欲しい物、自分の好みや興味ある物などのユーザ好適情報が登録されていると、そのユーザ自身に適した店又はお勧

めの店が優先的に表示され、ユーザが入りたいと思っている店がすぐに見つかる形態とすることができます。

【0033】

また、本発明では、ギフト商品取扱い業者が、複数の利用者がホームページ上でメッセージ交換している内容を認識して、当該利用者達にとって適した店を優先的に表示したり、お勧め商品を知らせたりしてもよい。

【0034】

複数の利用者がホームページ上で、ギフト商品取扱い業者が用意した質問事項に答えることにより、当該利用者達にとって適した店を優先的に表示したり、お勧め商品を知らせたりしてもよい。

【0035】

このように、ギフト商品取扱い業者が利用者達に適した店を優先的に表示したり、お勧め商品を知らせたりする場合は、ギフト商品取扱い業者のデータベース（商品に関するデータベース、心理テストに関するデータベースなど）を利用することができる。

【0036】

このような形態を採用することにより、複数の利用者にとって適した店又はお勧めの店が表示され、当該利用者達が入りたいと思っている店がすぐに見つかる形態とすることができます。

【書類名】要約書

【要約】

【課題】 利用者同士が、実際には離れた場所に居ても、実際に会って会話をしながら商品を探しているかのように、ギフト商品を選択して贈ることができるオンラインギフト方法。

【解決手段】 通信ネットワークを利用してギフト商品を贈答するシステムであって、少なくとも1人の贈答人を含んでいる複数の利用者が、通信ネットワークを利用した仮想空間と、当該仮想空間内において各利用者毎に定義されたシンボルとを共有しており、この仮想空間内で複数の利用者がメッセージを交換することにより、贈答人が被贈答人に対するギフト商品を選択して贈答するオンラインギフト方法。

【選択図】 なし

出願人履歴情報

識別番号 [500104048]

1. 変更年月日 2000年 3月10日

[変更理由] 新規登録

住 所 兵庫県西宮市樋の池町27-14-605

氏 名 有限会社ハートギフト